

金子秀子＊選

一般の部「自由に四季を詠んだ作品」◎入選

仔牛眠る豊かな寝蓐大海

一望の野やとんぼうの無音界

竹落葉望み新たにバスを待つ

名月や老いの坂道明るうす

振り返りつつ草笛の遠ざかる

月読のひかり治し敗荷

今生の一句いつの日吾亦紅

能因の歌に秋思の深まりぬ

階の青葉しずくや関の址

枯葉鳴る音にまぎれて言えぬこと

革靴馴染みてきたり夏に入る

見るたびにほほ笑む翁あたたかし

夕鐘よ向日葵畑の風に乘れ

かはほりやいつか人住む月の面

銀漢やメビウスの輪に回遊魚

鶴篝や絶えず流るる水と人

一山に滝を懸けたり藤の花

露天風呂裸体を包む虫の声

とつぷりと暮れみちのくの大刈田

ひとつまたひとつと母は栗を剥く

埼玉県さいたま市 増田 信雄

茨城県下妻市 篠崎 順子

白河市 岡部 赤崩山

白河市 小林 富子

白河市 佐藤 和子

桑折町 大田 元一

千葉県八千代市 大久保 文夫

千葉県八千代市 大久保 文夫

会津若松市 新井田 美佐子

兵庫県神戸市 平松 凜心

白河市 田村 玲子

埼玉県小川町 寺澤 弘忠

白河市 高橋 淳子

矢吹町 岡本 堯子

福島市 角 一恵

国見町 高橋 也有子

白河市 古川 一光

矢吹町 円谷 節子

古殿町 渡辺 家造

愛知県東浦町 伊藤 京子

家苞の南湖団子や月朧

連覇なる白河越への夏の陣

白河の空木に寄せる旅ごころ

楽翁の眼差し憂ふ遠しぐれ

かなかなや落暉に染まる小峰成

秋空と小峰城置く水溜り

関山の尾根に人見る賜日和

下萌や十万石の城の址

音立てて雪解水落つ駅舎かな

露ひとつ芭蕉の句碑を流れけり

幾山河越えて南湖へ鳥渡る

門火焚く白河口のいくさ跡

青田風南湖を渡り関山へ

秋澄むやまなざし清き楽翁像

汗の手のぶつかつて行く祭かな

天守閣しづかに動き天の川

紫陽花の萼まだ白く谷津田川

矢吹町 納谷 一光

矢吹町 丹内 マリエ

大阪府吹田市 富永 武司

会津若松市 鹿目 京子

南相馬市 高倉 紀子

矢吹町 藤田 光徳

矢吹町 藤田 光徳

白河市 佐藤 和子

白河市 佐藤 和子

岩手県一関市 青星 ふみる

千葉県八千代市 大久保 文夫

白河市 吉原 瑞雲

宮城県登米市 杉田 広仁

白河市 高橋 淳子

矢吹町 印田 弘司

矢吹町 印田 弘司

白河市 遠藤 優子

海外の部 ◎入選

移民早六十二年銀河濃し

マナウスのビルの谷間に雲の峰

種を蒔く一粒ずつにある命

春眠を日ごと味はふ余生かな

頼朝も歩みし春の由比ヶ浜

伯 パラー州トメアス市 三宅 昭子

伯 アマゾンナス州マナウス市 谷角 佳世子

伯 リオ・デ・ジャネイロ州セザリオ・ランジエ市 井上 人栄

伯 サンパウロ州ダ・セーハ市 山畑 嵩

米 メリーランド州メイモニアム 田中 哲也

一般の部「白河を詠んだ作品」◎入選

佇みておとめ桜や小峰城

投網打つ那須岳ひとつ捕る如く

深々と関跡をゆく秋の音

岩手県奥州市 千葉 信

矢吹町 木戸 和男

南相馬市 甲田 雅子